

リウマチ科 研修プログラム

1 研修先

リウマチ科

2 指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

3 診療科基本スケジュール

- (1) 研修期間 自由選択研修 4週間 ※自由選択が1回目の研修は当該期間を短縮することはできない(延長は可)が、2回目以降の研修は短縮することができる。

(2) 配置予定

	自由選択研修
病棟	指導医の指導下で、診療の補助 検査、診察、治療を担当医として実施
検査	基本的検査法の修得、関節エコー検査の研修

(3) 週間予定表

	午 前	午 後
月	外来・病棟業務	病棟業務 呼吸器内科・リウマチ科合同カンファ
火	外来・病棟業務	病棟業務 リウマチ科カンファ・回診(水曜日の場合あり)
水	外来・病棟業務	病棟業務 リウマチ科カンファ・回診(火曜日の場合あり)
木	外来・病棟業務	病棟業務
金	外来・病棟業務	病棟業務

(各科教育に関する行事)

- ・ 入院患者カンファレンス・回診 1回/週
- ・ 呼吸器内科・リウマチ科合同カンファレンス 1回/週
- ・ リウマチ・内科関連学会への発表参加、論文投稿

4 研修目標

(1) 自由選択研修

- ・ 内科認定医、内科専門医を取得する事を目標とする。
- ・ 主要な免疫疾患(リウマチ性疾患・膠原病疾患:関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、血管炎症候群、シェーグレン症候群、ベーチェット病、自己炎症性疾患等)の診断と治療方針が決定できる。
- ・ 不明熱・運動器痛の救急対応(初期対応)ができる。
- ・ 自己炎症性疾患などの稀は遺伝性疾患の鑑別ができる。

- ・ グルココルチコイド、免疫抑制剤、抗リウマチ薬、生物学的製剤などの治療を効果的かつ安全に行える。

#	代表的行動	知識	態度	技能
①-1	発熱や運動器症状などの主訴から鑑別される疾患を挙げる。	●	●	
①-2	リウマチ・膠原病疾患に関連する身体所見を正しく記録する。	●	●	●
①-3	関節疾患の画像上の特徴を学び、適切な判定を行う。	●	●	●
①-4	リウマチ・膠原病疾患の診断・分類基準を理解し、正しい診断を行う。	●		
①-5	リウマチ・膠原病疾患の合併症を理解し、適切なスクリーニングを行う。	●	●	
①-6	適切な鎮痛・解熱対応を行う。	●	●	
①-7	グルココルチコイド、免疫抑制剤、抗リウマチ薬、分子標的薬の副作用に対処する。	●	●	
②-1	喫煙・歯周病のリスクを説明し、禁煙・歯科健診の指導をする。	●	●	
②-2	長期的治療の必要性、薬剤の副作用に関して患者に指導する。	●	●	
②-3	薬剤のアドヘアランスを高めるための助言、環境整備、家族協力の要請を行う。	●	●	
③-1	指定難病の適応について理解する。	●		
③-1	免疫抑制治療に際して、適切なワクチンの推奨を行う。	●	●	

#	代表的行動	知識	態度	技能
①-1	主訴から鑑別疾患を想起し、十分な正しい身体所見情報を記録する。	●	●	●
①-2	鑑別診断を進める上で、適切かつ安全な検査を計画・実施する。	●	●	
②-1	検査値・画像データの異常をとらえ、的確に表現する。	●		
②-2	関節エコーの適応について理解し、観察・記録を行う。	●	●	●
②-3	関節液検査の結果から鑑別診断を挙げる。	●		
②-4	主訴の緩和を目的とした初期治療対応を実施する。	●		
③-1	担当患者の医療記録や文書を適切に作成する。	●		
	日々のカルテに必要な記載事項とアセスメントまで漏れなく記載	●		
	入退院計画書を作成	●		
	退院サマリーを仮保存	●		
	退院後連携に関するかかりつけ医や保健センターへの文書を作成	●		
③-2	指定難病申請が適性を考察する。	●		

5 経験すべき症候・疾病・病態（赤文字下線付きは必須項目）

経験すべき症候(※1)	発疹、 <u>関節痛</u>
経験すべき疾病・病態(※2)	肺炎

※1 外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

※2 外来又は病棟において、上記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

6 経験すべき手技

胃管の挿入と管理

7 実際の業務

- ・ 診察手技：関節炎の診察
- ・ 検査：運動器疾患、発熱性疾患に対する血液検査、レントゲンなどの基本的検査計画の実施
- ・ ベッドサイド：入院患者の問診と診察、検査および治療計画の策定
- ・ カルテ記載：日々の経過記録、週毎のサマリーの記載、退院時サマリーを遅滞なく記載する。
- ・ 治療管理：運動器痛の診断・管理
 - 発熱性疾患の診断・管理
 - 免疫抑制治療患者の感染症の診断・管理
 - グルココルチコイド、免疫抑制剤、抗リウマチ薬、バイオ製剤の副作用の管理
 - リハビリの必要な患者へのリハビリ処方
 - 治療計画の作成と退院計画の作成、必要に応じた転院調整

8 指導内容

- ・ 主として病棟において免疫疾患（リウマチ・膠原病性疾患）を研修する。
- ・ リウマチ・膠原病内科の基本的な診察・検査・治療の補助を研修する。
- ・ 初期臨床研修共通到達目標及び内科共通到達目標の免疫疾患の研修を軸に、血液・造血器・リンパ網内系疾患、皮膚系疾患、運動器（筋骨格）系疾患、呼吸器系疾患、腎・尿路系疾患、眼・視覚系疾患、感染症との連携を密にした医療の研修を行う。
- ・ 外来・病棟においてウマチ・膠原病性疾患について研修する。
- ・ リウマチ・膠原病性疾患に対する診断・専門性の高い検査・治療・手技を習得する。
- ・ 希望に応じて、関節エコーを研修する。

9 方略・評価

（1）方略

- ・ カンファレンス・回診で治療方針の検証
- ・ カンファレンス・回診で問診のとり方・検査成績の解釈・胸部 画像所見の具体的な読影と治療への活用を対面形式で指導

（2）評価

- ・ 形成的評価：指導医・上級医・看護師が合議により評価を行う。
- ・ 総括的評価：プログラム終了時に、指導医・上級医、病棟看護師・外来看護師等の評価表を参考に、リウマチ・膠原病性疾患を適切に対応できる基本的な診察能力（態度、技能、知識）を習得したか、統括指導医・指導医が総合評価する。